

厚生委員会

3月定例会の報告

厚生委員会とは

厚生委員会は「**健康福祉部**」と「**市民病院事務部**」を担当している。



委員長：大塚久美子 副委員長：福西章人

委員：神谷庄二 松井晋一郎 磯部雅弘 犬飼勝博 中根文彦 杉浦功記

① 障害者相談支援事業について

Q 令和5年度予算の事業委託料を5524万3千円に増額した理由は？

A 障害者相談支援事業は社会福祉法人である「西尾市社会福祉協議会」と「くるみ会」に委託しており、その委託料のほとんどは、相談員や専門職などの人件費が占めている。増額の理由は、**年々増加している相談件数に対応するとともに、基幹相談支援センターとしての機能を担っていくため、両法人が職員を一人動員することによるもの。**



②地域活動支援センターについて

Q 地域活動支援センター負担金の増額理由と期待する効果は？

A 地域活動支援センターは障害者の日中の居場所を提供し、社会参加を促すことを目的に、相談支援に加えて創作活動や生産活動の機会の提供、社会適用訓練などを行うもので、NPO法人ハートネット西尾に委託している。

増額の要因は、現在、**矢曾根町にあるセンターの職員一人の増員と、本年度新たに一色町に設置する運営費の増加**によるもの。新設のセンターに係る費用は2638万6千円で、専門相談員など3人の人件費のほか、土地、建物の賃借料や光熱水費、内装改修費用などを含んでいる。



②地域活動支援センターについて

期待する効果は、職員の増員で相談支援の一層の充実を図ることと、一色町に新しいセンターを設置することにより、旧3町地域の潜在的な利用者を掘り起こして孤立化を防ぎ、地域での自立した生活を促進していく。

就活センターえん



めだか工房



せせらぎ



※特定非営利活動法人ハートネット西尾が運営している。

③産後ケア事業について

Q 産後ケア事業の運用での変更点はどのようなか？

A 本年度は利用者負担額を従来の金額から内容によって**600円から2千円程度減額**したため、利用者数の増加も見込まれると判断している。

妊娠中の事業利用について問い合わせがあった場合、**仮予約**を行い、利用する際の利便性向上を図っていく。



また、本年度から交通手段の確保が得られないような場合は、事業の利用回数に関係なく、**利用合計金額が1万5千円までタクシー料金を助成**するなどして、活用しやすい事業にしていく。

④介護予防活動支援事業について

Q 介護予防活動支援事業の具体的な拡充、充実施策は？

A 本事業は地域における介護予防活動の育成・支援を行うもので、特に近所の身近な場所で地域の人による指導により体操を行う「**まちの体操教室**」について実施場所を拡充し、充実を図っていく。

地域包括支援センターのサポートのもと、自主グループによる教室の立ち上げを行っており、**昨年度新たにできた6団体をはじめ2月末現在で30団体**ある。本年度も同程度の新規立ち上げを目指している。



まちの体操教室(室場)

⑤ 地域包括支援センター 「はずサブセンター」

Q はずサブセンターを設置することとなった経緯はどのようなか？

A 地域包括支援センター吉良幡豆は、吉良・幡豆中学校区2カ所を管轄しており、他の地域包括支援センターよりも広い地域を担当している。



この2地区の令和4年4月の高齢者人口は約1万200人で、これは**他の6センターと比べて約1.5倍から2倍の人数**になっている。運営法人から幡豆地区にサブセンターを設置し**業務の円滑化とサービス提供の維持向上**を図りたいという要望があったことにより、サブセンターを設置する運びとなった。

ご静聴ありがとうございました。

厚生委員会